



備中県民局セミナー「子どもの居場所」 楽しさが人結び付ける 川崎医福大講師が講演

備中県民局は「子どもの居場所」づくり

をテーマにしたセミナーを始めた。食事を楽しみながら幅広い世代が交流できる子ども食堂や学習支援など住民有志らによる地域活動を広げていく狙い。子どもの居場所は、子どもの貧困や孤立など多様な社会問題の解決につながる地域拠点として、国や自治体が普及を目指している。そうした活動に関心がある人を対象にしたセミナーの初回は25日、同県民局で開かれ、約30人が参加。川崎医療福祉大の直島克樹講師が講演した。

「子どもの居場所」についての解説を聞くセミナー参加者

子ども食堂運営者らによる「子どもを主体とした地域づくりネットワークおかやま」代表も務める直島氏は家庭や学校とは別に、子どもが安心して過ごせ、大人や社会とつながれる「第3の居場所」の必要性を強調。全国で急速に拡大している子ども食堂について「子どもを真ん中にさまざまな人が集まる新たなコミュニティの場。楽しさが人を結び付けている」と説明した。

県内の子ども食堂が、新型コロナウイルスで打撃を受けた家庭に食料品を届ける支援活動を展開したことも触れ「地域に『動き』をつくるのも居場所の役割」と述べた。この日は総社、浅口市の子ども食堂運営者による活動報告もあった。セミナーは12月まで3回続きで開催する。(井上建吾)